

# 2019年3月期 第3四半期 決算の概要

2019年2月1日

日本ユニシス株式会社

良好な事業環境のもと、サービスビジネスが伸長し増収増益。  
収益性向上により営業利益率は+1.3pt改善。通期見通しに対し順調に進捗。

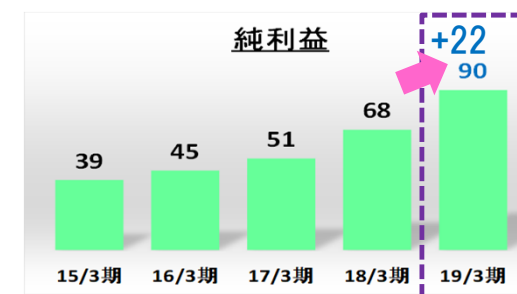
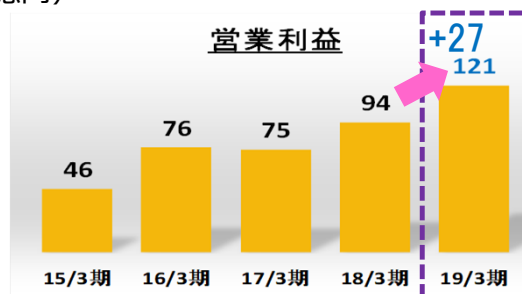
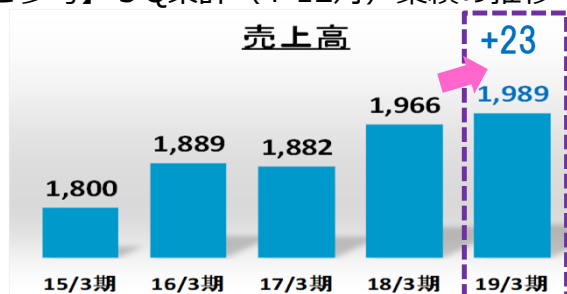
(単位：億円)

	3Q累計 (4-12月)		前年同期比 増減	
	2019/3期	2018/3期		
売上高	1,989	1,966	+23	+1.2%
売上総利益	503	477	+27	+5.6%
販管費	▲382	▲382	+0	+0.0%
営業利益	121	94	+27	+28.3%
(営業利益率)	(6.1%)	(4.8%)		(+1.3pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	90	68	+22	+33.0%
受注高	2,041	2,062	▲21	▲1.0%
受注残高	2,259	2,203	+55	+2.5%

## <3Q累計決算のポイント>

- **売上高**  
システムサービスおよびアウトソーシングの伸長が製品販売の減収をカバーし増収。
- **営業利益**  
増収効果およびサービスビジネスを中心に売上総利益率が向上し増益。営業利益率は+1.3pt向上。
- **受注高・受注残高**  
受注高はシステムサービスが積み上がるも、前年同期に大型アウトソーシング案件を計上した影響等で減少。受注残高はシステムサービス案件が着実に積み上がり増加。

【ご参考】3Q累計 (4-12月) 業績の推移 (単位：億円)



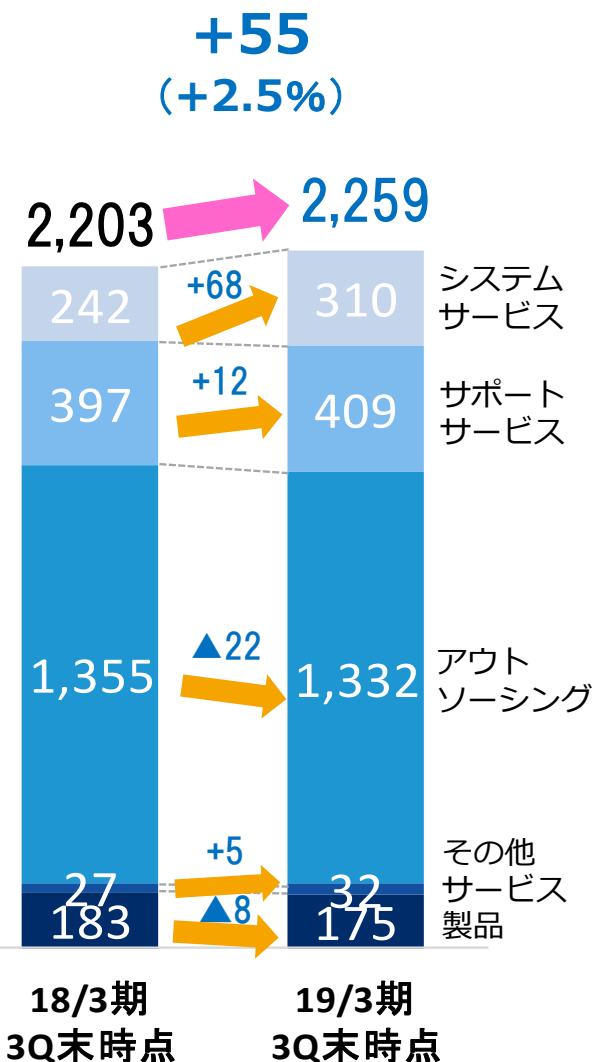
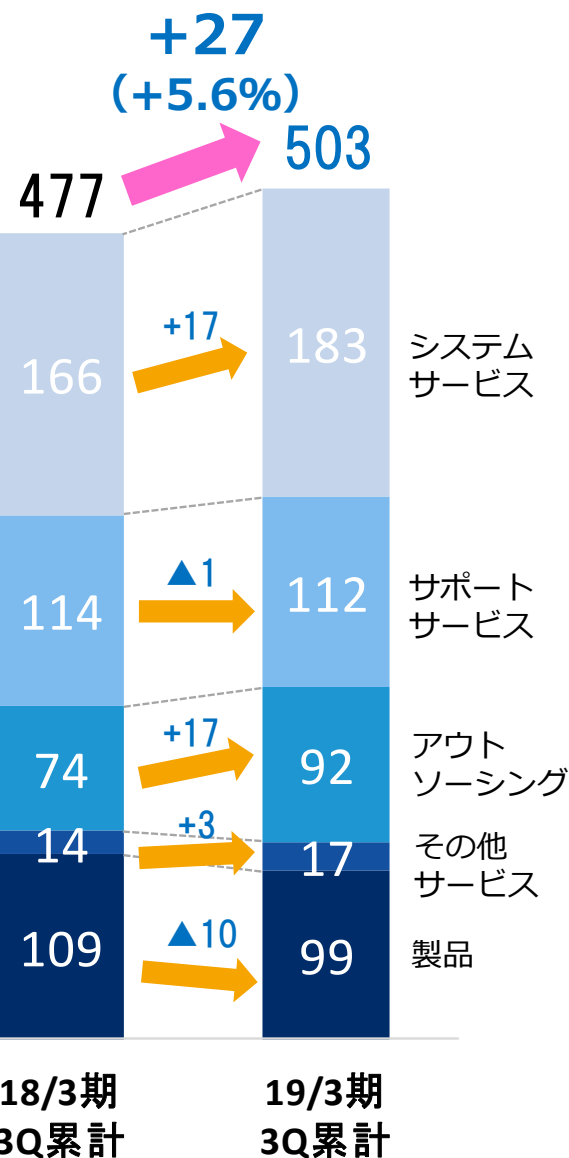
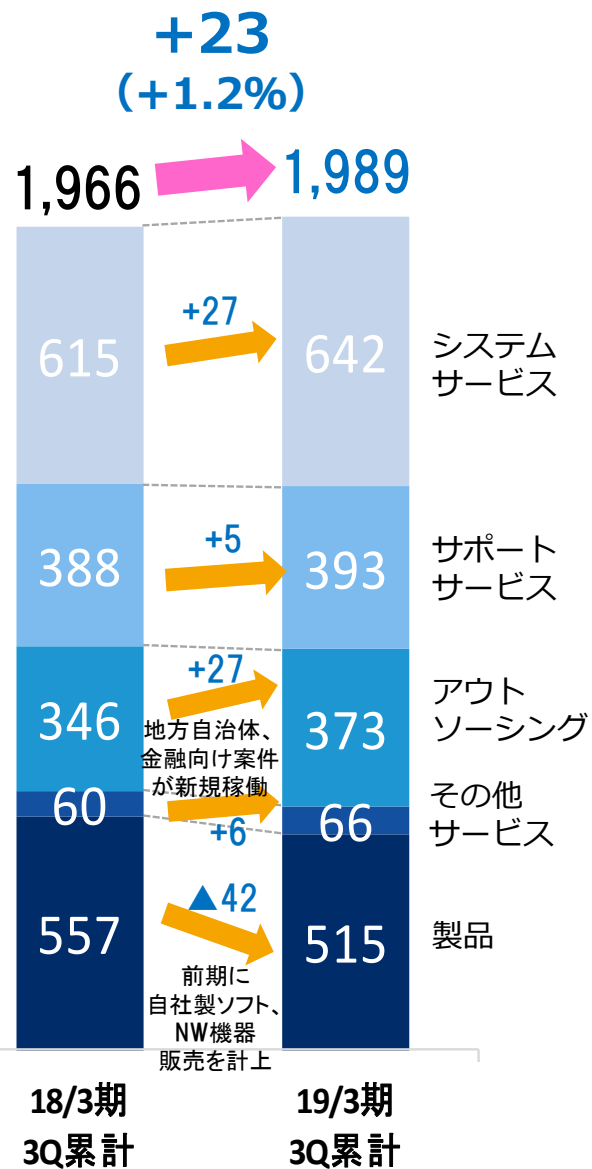
(単位：億円)

## 売上高

## 売上総利益

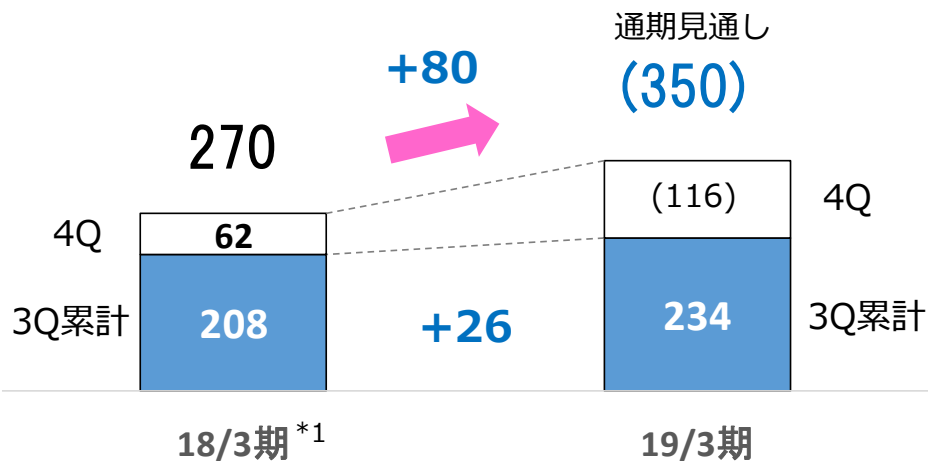
## 【ご参考】

## 受注残高

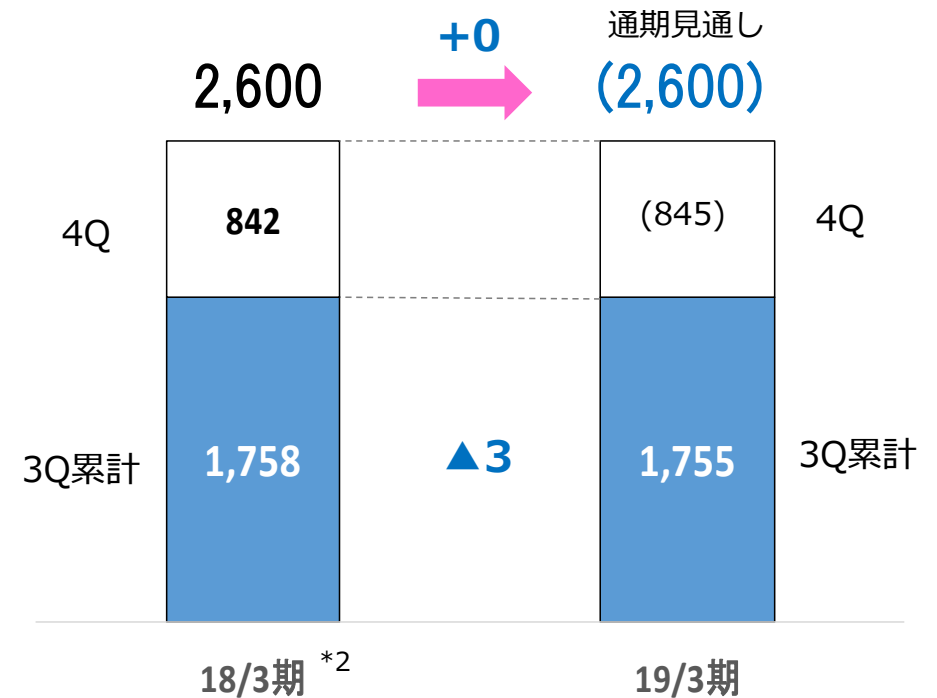


(単位：億円)

## 注力領域



## ICTコア領域



- ・ QR・バーコード決済サービスの取扱高が徐々に拡大。JCBとの提携等、加盟店拡大に向けた取り組みを強化
- ・ オープンAPI公開基盤「Resonatex<sup>®</sup>」で百五銀行と「Origami Pay<sup>®</sup>」の口座ダイレクト決済連携を実現
- ・ 金融機関向け営業店窓口業務支援システムの採用が拡大

- ・ 金融機関向けシステム開発が堅調
- ・ 地方自治体および金融機関向けアウトソーシング新規稼働
- ・ 前年同期に比べ通信キャリア向けネットワーク機器販売が減少

\*1 18/3期は前中期経営計画での「デジタルイノベーション」「ライフイノベーション」売上高の合計

\*2 18/3期は前中期経営計画での「ビジネスICTプラットフォーム」売上高

通期の売上高、営業利益、純利益の予想は  
公表値（11月6日）から変更なし

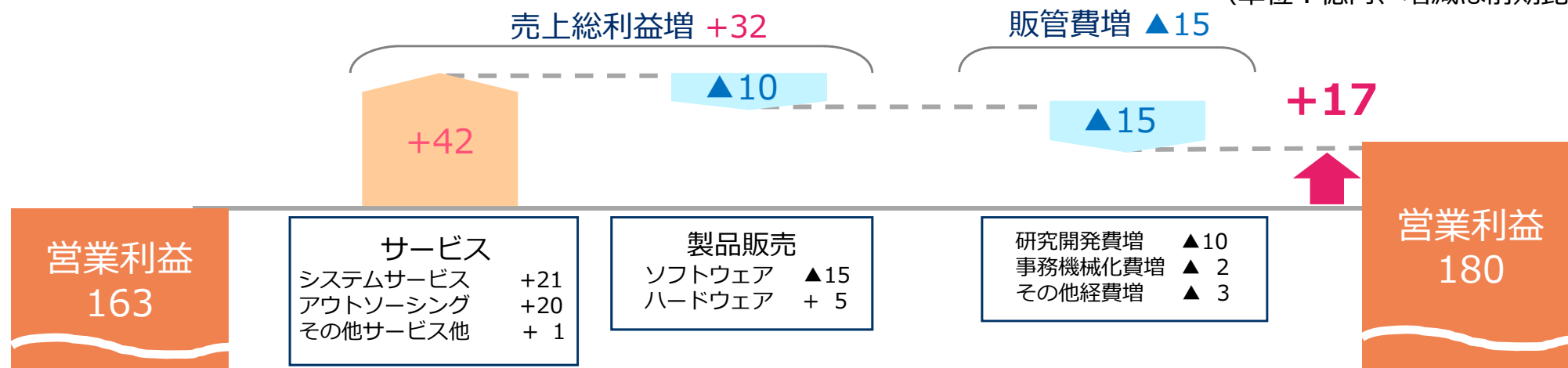
（単位：億円）

	19/3月期 3Q累計実績		19/3月期 4Q予想		19/3月期 通期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前期比
売上高	1,989	+23	961	+57	2,950	+80
営業利益	121	+27	59	▲10	180	+17
(営業利益率)	(6.1%)		(6.1%)		(6.1%)	
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	90	+22	35	▲17	125	+6

\* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

## 【2019年3月期 通期予想 営業利益の増減分解】

（単位：億円、増減は前期比）



18/3期通期

19/3期通期

# Foresight in sight

**UNISYS**

**(注意)**

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。